

普及活動情勢報告（令和4年4月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

スマート農業の導入を目指して 農事組合法人庄毛ファーム3月定例会より



3月18日、庄毛ファームは、室戸市吉良川町の庄毛土地改良区事務所で定例会を開催し、理事ら3人と関係機関が参加しました。

この定例会は庄毛ファームの事業計画の作成と実行を支援するため、農業改良普及課室戸支所の提案で令和3年9月から毎月1回開催されています。

庄毛ファームでは稲WCSの経営面積を2haから令和5年には5haに規模拡大を計画しています。理事からは省力化に向けて「今年ドローン防除の導入を検討したい」「試験を行ってほしい」と要望がありました。

農業改良普及課室戸支所は、関係機関と連携して庄毛ファームでドローン防除の実証ほを設置、検証しながら、導入に向けた支援をしていきます。

中山地区のシャクヤクの生産振興



J A 高知県安芸地区花卉部中山支部（7戸）では、シャクヤクの出荷販売に向けて、3月28日に現地検討会を開催しました。栽培ほ場7カ所の生育状況を確認し、今後の管理について意見交換しました。

農業改良普及課は、出荷までに問題となる病害の防除管理について指導しました。11月以降の主な栽培ほ場における気温・地温を測定した結果、地域により昼間の温度の違いがあること、また春先にマルチをすることで地温を高く保て、萌芽が早まることを報告しました。生産者からは収穫時期が集中しないよう品種の早晩性や、マルチの有無による計画的な作付けにつなげていきたいとの声が聞かれました。

農業改良普及課では、今後も中山地区でのシャクヤクの生産振興につながるよう支援していきます。

営農相談会を開催しました ～安芸出荷場ナス部会～



4月15日、安芸集出荷場に出荷にこられたナス農家90人に対して、農業改良普及課は、4月以降の栽培管理資料を配布し、温度管理や灌水管理、品質保持対策、熱中症対策等について周知しました。

農家からは、害虫ハスモンヨトウの防除対策や、夜間にサイドや天窓換気を行う場合の外気温の目安について質問がありました。また、単価安の今作は、作の最後までしっかり管理し収量アップを図る必要があるという前向きな声が聞かれました。

農業改良普及課は、作の最後まで関係機関と連携し、営農相談会や個別巡回等を通じて収量向上を支援していきます。

土壌還元消毒や収入保険制度について学ぶ（赤野支部園芸部園芸研究会）



4月19日、赤野支部園芸部園芸研究会が赤野集出荷場で勉強会を開催し、生産者8人が参加しました。肥料メーカーを講師に招き、有機資材や土壌還元消毒資材について学びました。生産者からは実際に行った土壌還元消毒についての意見や感想が話されました。農業改良普及課からは収入保険制度について説明し、土壌病害も含めた様々な収入減少のリスクに備えるように声かけをしました。

農業改良普及課は、今後もJ A等関係機関と連携して生産者の生産や経営の安定に向けて支援します。

発芽期はやや早め ～ユズの発芽調査を実施～



農業改良普及課では、毎年3月末から4月にかけてユズの発芽調査を実施しています。

調査では、J A営農指導員とともに、J A高知県安芸地区管内の4市町村計19園地の調査圃場を巡回し、圃場ごとの発芽期を調査しています。

令和4年の管内におけるユズの発芽期については、地区によるばらつきが見られるものの、平均すると4月8日ごろと、平年に比べ5日程度早い発芽期となりました。

今後は、発芽調査結果も含めたユズの生育状況や開花期以降の防除について、J A部会員向けに配布している「ユズ栽培管理だより」や各支部講習会で周知するなど、春先の防除の徹底について指導していきます。